

# 札幌新まちづくり計画市民会議 経済・雇用分科会第3回会議

会 議 録

平成16年2月4日(水)午後6時開会  
リンテージプラザ 2階 第1研修室

## 1 開 会

事務局（企画部長） それでは始めさせていただきます。第3回目の経済・雇用分科会でございます。

荒委員は本日急用のためご欠席でございます。それから工藤委員が少し遅れて来られるようです。

中心部の会場が取れず、少しはずれた場所になってしまい申し訳ございません。ご容赦いただきたいと思います。それでは、内田会長よろしく申し上げます。

## 2 議 事

### （1）今後の分科会の進め方

内田会長 前回の全体会議のときに私のほうからお願いしたのですが、今まではご意見を述べていただいたり、質問等をしてもらいましたが、あと2回の分科会では、全体の提言をとりまとめるという形で、議論を進めていきたいと思っています。

全体会議でもご質問があつてお答えしましたが、市が提示している素案を完全に無視して作るのではなくて、素案の問題点を指摘する、新しい課題を付け加える、それから、新しい解決方法を我々が提示するという形で、基本的には新しくして構わないのですが、市の素案そのものについては必ず言及してほしいというように申し上げたとおりなので、そういう形でやらせていただきたいと思います。

現市長になってあと3年間の任期のうちで、はっきりとやれることを少し具体的な形で提言してほしいという趣旨だと思うので、その意味で将来的な考え方を提示すると同時に、この3年の中でとりわけ重点的にやっていくものをイメージしながら作っていく形になると思います。

具体的な進め方そのものについては、ご意見を伺いながら今までと同じようにやっていくという形をとらせていただきたいと思いますが、何か進め方でご意見があれば最初に承りたいと思います。

高田委員 道も積極的に同じような考え方を持ってやっているようで、新聞等にもよく出ているわけですが、道との接点をどういうふうに持ちながら、札幌市としては取り組んでいくのでしょうか。同じような考え方を持っているとすれば、連携というか、そういうものも必要かなと思っています。その辺りがどうなっているのか、お聞きしたいところでございます。

それから、札幌市役所の諮問機関である札幌市緑の審議会が30日にあるということ非常に大きく新聞に出てございましたが、いろいろな審議会がございますが、その辺りとの接点ということで、私たちのこの会がどういう意見を持ってどの程度までやっていかれるのかというようなことが少し気になるところです。

その辺りについてお示しいただければありがたいと思っております。

内田会長 つまりこの市民会議の位置づけということですね。

経済局や原局でそれぞれ今いろいろな議論をしているわけです。それで、今回新たにこういう新まちづくり計画市民会議というものを設けたという意味はどういうことですか、ということですね。私が言うよりも、市のほうからこのことについての見解を説明していただいたほうがいいと思うので、していただけますか。

事務局（調整課調整担当係長） 今回新まちづくり計画を立ち上げて、皆さんで色々ご議論をいただいているわけですが、すでに市の各事業部局のほうでも審議会というものを持って議論をしていたり、あるいはすでに基本計画というものを持っている場合もあります。

その各事業部局が持っている審議会とこの新まちづくり市民会議との関係ですが、今回の新まちづくり計画の市民会議は、今後3年間の札幌市の方向性を定めるビジョン編というものを今作ろうとしていますので、まさにどういうビジョンでもって今後3年間のまちづくりを進めていくのか、この3年間で何を重視してやっていったらいいか、そういうことをご議論していただく場になるわけです。

ただ、個別の審議会は審議会で動いているということもございますので、具体的なことにつきましては個別の審議会のほうでも専門的な議論がされてくるので、2つの会議の整合性を保ちながら、片方の委員会での審議内容については新まちづくり計画市民会議のほうにもその情報はもちろんお伝えしますし、新まちづくり計画の市民会議でなされた議論なり、意見の決定については、各事業部局が持っている審議会にもきちんと伝えて、その整合性を図りながら、まちづくりを進めていきたいと考えているところです。

田村委員 よく分かりません。結局その繰り返しがこういう状況になってきているのではないのでしょうか。こちらはこちらで概略的なというか素晴らしい言葉がいつも並んでいます。それだけでいくのであれば、結局また変わらないで各部局は部局でこれをどういう風に捉えてこうやりますとか、そういう感じになってしまうので、それでいいのかなという気がします。

それならば、このまちづくり計画では、例えばこの基本目標があって、それに対して個別具体的に言ってもいいのではないかと私は思います。そうしないと、各部局にも伝わらないと思います。

高田委員 今まではブレーストーミングという形でやってまいりましたが、今回ぐらいからはやはり手法の問題に入ってくるのではないかと私は思っています。

そうしたときに、やはり権威のある緑のほうの関係の審議会などを無視するわけにはいかないと思います。

でも、私たちは私たちとしての考え方があるわけですから、どの程度私どもの会議が信任されるのかということもあります。今までは自由な意見として申し上げてまいりましたが、そろそろそういう形になってくるのではないのでしょうか。

内田会長 この位置づけは市長にもう一回きちんと聞かなければわかりませんが、一応通常審議会というときにはそのプロが議論しているという形になります。

この会議は、皆さんそれぞれプロではありますが、名前は市民会議なので、今までの専門家だけではなくて、いわゆる市民のもう少し幅広い意見を聞きたいというのが一番の趣旨だろうと思います。

ここで我々の言ったことが全部細かいところまで審議会に通じるかということやはりそれは色々なプロセスの中で問題がありますし、審議会のほうでそれは拒否するかもしれません。

通常審議会において、プロの視点で見えてしまうと、非常にコンクリートな、他の分野のことを考えないで「ここに何かがあればいい」という議論になりますし、原局もそこだけを見ているから、そこだけうまくいくようなプランを作ってしまう。

そうではなくて、もっと幅広く市民から意見を聞きたい。そういうことが市長の意図だと私は理解していますので、そういう形で我々の役割を考えればいいのかというのが私の立場です。

だから、重複することはあってもいいですが、むしろそういうプロがあまり議論しないようなところを我々が提示できれば一番いいのだろうと思います。

それと、力点の置きかたがやはり違ってきますので、我々から見た力点はここだ、ということを示すできればいいですね。力点は少し違うという味が出せるのはどういものなのか、というところが我々の知恵の出どころだと思います。

全体会議でも言いましたように、選ばれた市議会があって、審議会があって、というなかで、この市民会議が設けられている位置付けとは何かということ、やはり、そういうところには参画していないが、常日頃考えておられる生の声を聞きたい、それを活かしたいというのが市長の考えだと思います。それがディテールのことになれば一番いいのだろうと思います。

高田委員 それともう一つ、私が一番初めに申しあげました道との関係ですよね。道も似たようなことを掲げているわけですが、その辺りもどうなのかなと思います。

内田会長 私はこれは別に提言書に書いたらいいと思います。

道と市の連携ということが市の行政にとっても、道の行政にとっても絶対に必要不可欠なことなんですね。これは市民会議の意見として別項目立てで我々の意見として私は出していいと思います。

道のプランというのは札幌市が白なんです。つまり、札幌市以外のところばかりなんです。市は市で自分のところだけで考えますから、近辺への影響などは考えません。そういうことをしては北海道全体がだめになってしまうので、道と市の連携というのは必要不可欠です。

それは市長に直接言うという形で、私は経済・雇用ということではなくて、この市民会議の一つの大きな柱立てとして出して構わないと思います。

事務局（産業開発課長） 委員長もおっしゃるように、産業振興の分野では特に、北海道が産業振興という場合、道内212市町村ありますが、211のことしか考えてきま

せんでした。ただ、最近そういった方向が変わってきました。

今まで北海道経済産業局と札幌市というのは、経済産業局の考え方は道央圏の振興というのが前面にありますから、非常に事業の方向が一致して、色々な事業をやらせていただいていたのですが、最近は道も色々な形で連携してやっていこうということで、特に私が所管しているようなバイオ産業の振興の事業などについては、経産局が音頭をとりまして、「北海道バイオヘルスケア」という大きな連合体を作って、いろいろな事業について重複しているものは整理して、一緒にやったほうがいいものについては一緒にやるといった形で、道、経産局、開発局、それから、国の機関なども連携をとって進めています。

ただ、これは一つの分野で始まったところでありまして、確かにおっしゃるように道との協調、連携をどう整理していくかということは非常に大きな問題だと思います。

高田委員 それと、最近道の動きが頻繁に新聞に出ています。それを見ていると、札幌市の動きのスピードが遅くなるような感じがします。せっかく市民会議などを行っても、動きが見えてこない、形にならないのは本当に問題じゃないかと私は思っています。

内田会長 まあ、新聞に出てもなかなか進まないこともあります。

田村さんなどがここでよく指摘することで、プランニングの部分、具体的にどうやっていくかというところで煮詰まっていく。そこになると利害関係がすごく出てくるんです。

緑というと総論では皆賛成なんですけど、どこを緑にするか。そこを緑にすると、別のところで建物を規制しなければいけないというときにはその調整ですごく時間がかかってしまう。そういう過程が全部にあります。

それを全部行政がやっていく時代なのか、そうではないのか。今回の全体会議でもそれに近いご発言があったので、そういう考え方を示していく、というほうがいいのかと思います。

高田委員 180度考え方を変えていかなかったら絶対だめだと思います。

## (2) 事務局説明(資料「ビジョン編に向けての市の素案」)

内田会長 それでは議事の2番目の最終的に我々のほうでどういう形の取りまとめをしていかなければならないかということについてですが、もう一度あらためて事務局のほうからご説明を願って、それに我々がどう具体的に答えるか、どう付け加えるかということをもう少し今度は報告書を意識しながら議論していくという形を取らせていただきたいと思います。最初は事務局のほうから説明をお願いします。

### 資料1「ビジョン編 構成イメージ」

事務局(調整課調整担当係長) それでは説明させていただきます。市のほうでは市民会議からの提言を受けまして、ビジョン編を作っていこうということで、庁内でビジョ

ン編についていろいろ検討してきた経緯がございます。

資料1は市のほうで作ろうとしているビジョン編の構成イメージでありまして、これはすでに全体会議などでもお示ししたものでございます。

望ましい街の姿、(仮称)戦略目標、現状と課題、成果指標、各主体の主な役割、施策の基本方針という構成になっているわけですが、このうち現状と課題、それから施策の基本方針につきましては、すでに分科会のほうでお示しして、いろいろご議論いただいたところでございます。

まだ皆さんにお示ししていなかった部分もございましたので、今回すでに提出したのも含めまして、あらためてお示ししようということでございます。

#### 資料2「ビジョン編に向けての市の素案」

資料の2でございますが、これは札幌市が作っていかようとしている新まちづくり計画のビジョン編です。基本目標は5つ立てておりまして、この分科会では「元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ」という基本目標についての議論ということになってございます。この基本目標に関しまして、一体どういう社会が望ましい社会なのか、どういう札幌になったら望ましい街といえるのか、ということを書いたのがその望ましい街の姿でございます。「多くの企業が、時代の変化に対応した事業展開に取り組むとともに、市民やNPOは、積極的に起業に挑戦しています。また、本市の様々な資源を生かした高い競争力を有する産業が育ち、新たな製品や技術が札幌ブランドとして国内外に発信されるなど、経済は活力に満ちています。働く側にとっても、多様な就労の機会が充実しています。また、四季を通じて、国内・海外から多くの観光客が訪れるとともに、数々のコンベンションが開催され、様々な地域の人々や産業、文化が交流することにより、まちは活気に満ちています。」こういった社会を目指していくために、5つの重点戦略課題を意識して取り組んでいったらどうかというものでございます。

#### 重点戦略課題：中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援

2ページでございますが、先ほどのような望ましい街の姿を目指していくために、一つの課題として、中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援が大事ではないかということです。この重点戦略課題に対しまして「(仮称)戦略目標」というものを立てております。これは各重点戦略課題レベルで目指す、より身近な将来像を書いております。「札幌の経済を担っている多様な中小企業が常に時代の変化に敏速に対応し、新たな事業に果敢に取り組んでおり、また、豊富な人材集積やきめ細やかな支援制度を背景に市民やNPOによる起業が活発化し、持続的な経済の活力が生まれています」こういう状態を目指していったらいいのではないかとこのものでございます。

そして「現状と課題」につきましては、これらはすでに分科会でお示ししている部分であります。市内に所在する企業は、9割以上が中小企業であるなどの現状と課題が

見られます。

そして、この「(仮称)戦略目標」を実現するためには、行政だけががんばってもおそらくこういう状態を目指すことはできません。市民の方や企業、行政など各主体が、それぞれに担うべき役割があると思われまますので、それぞれの主体でどんな役割を担っていったらいいのかということを検討したのが次の各主体の主な役割でございます。

市民の役割といたしましては「新規創業へのチャレンジ」「ベンチャー企業への理解・投資」などが考えられます。

企業などに期待される役割といたしましては「新事業・新分野への展開」「技術開発への積極的な取り組み」などが考えられます。

NPO等につきましては「身近な生活サービスでのビジネス展開」などが期待されまます。

行政につきましては「企業支援制度の拡充」「創業支援体制の強化」「新しい産業分野に関する情報提供」などが期待されるかと思ひます。

これらを実体化するとどうなっていくかということが右側に書いてある施策の基本方針であり、施策でございます。

「『札幌元気基金』の枠組みづくりを進め、ニーズに応じた効果的な資金面での支援を強化する」「専門家によるアドバイザー制度・人材育成や情報提供の充実など、きめ細やかな支援を行う」。それを踏まえての施策がそこに書いてございますが、これにつきましては、すでに分科会にお示しして、議論をいただいたところでございます。

そして、その後に「分科会での主な議論」というところがありますが、これは今までの分科会での主な議論につきまして、その議論のテーマを参考として書いたものでございます。

#### 重点戦略課題：安心して働ける環境づくり

3ページ目ですが、重点戦略課題「安心して働ける環境づくり」でございます。この重点戦略課題レベルで目指すより身近な将来像といたしましては、「産業の円滑な構造転換や新たな産業の創出を背景に、時代にマッチした雇用が常に生み出され、高い求人倍率となっています。また、職業紹介のほか、相談やスキルアップのためのセミナーなど就労を支援する制度を活用した就職者が増加するとともに、ライフスタイルに応じた働き方が可能となり、少人数グループによる共同事業などの新たな就労のスタイルも増えてきています」。こういう状態を目指していったらいいのではないかと考えたところでございます。

「現状と課題」といたしましては、道内の完全失業率は、全国を上回る厳しい数値であるとか、有効求人倍率は、全国より低い水準であるといった状況が見られます。

そして、この「(仮称)戦略目標」を実現するために、各主体に期待される役割ですが、市民に期待される役割といたしましては「地域社会への積極的な参加」「職業能力の向上

や自己啓発」「職業訓練への主体的な参加」などが考えられます。

企業等につきましては「地域に密着した企業活動と雇用の場の創出」「多様な就労形態や就労機会の提供」などが考えられます。

NPO等につきましては「雇用によらない新たな働き方や、多様な就労形態による就労機会の提供」などが考えられます。

行政に期待される役割といたしましては「雇用のマッチング機能の強化・拡大」、総合的な就労支援の場の提供、求人情報や各種助成制度などの情報提供などが考えられるところですが、こういった雇用のマッチング機能の強化・拡大、「多様な働き方の支援」が行政に期待される役割なのかと思います。これは国、道、市の協働によって効果的にやっていかなければならないものと思われる。また、民間ノウハウの積極的な活用も図っていかなければならないものとも思われます。

そして、これを具体的に進めていくための基本方針ですが「再就職を目指す女性、中高年、若年等への総合的な就労支援体制づくりを、国等と連携し進める」「新たな働き方や多様な雇用の場の創出を図るなど、雇用の安定に取り組む」「建設業等の構造不況業種について総合的な支援策を実施する」という基本方針のもと施策を展開していったらどうかということで検討してきたところです。これにつきましても分科会におきまして議論していただいたところです。

「分科会での主な議論」につきましては、参考までにこれまでの分科会の議論のなかからいくつかのテーマを書いているものでございます。

#### 重点戦略課題：協働による観光振興とコンベンション事業の推進

4ページに移りますが、「協働による観光振興とコンベンション事業の推進」という重点戦略課題であります。「(仮称)戦略目標」といたしまして「四季が織りなす豊かな魅力に恵まれた観光都市としての優位性を一層高め、まちが人々を引きつけ、迎える市民のおもてなしでもう一度訪ねたくなるまちになっています。さらに、国内外の人々の交流を演出する多くのコンベンションの開催で、活気があり新たな市民文化を育むまちになっています」、こういう状態を目指していったらどうかと考えていたところでもあります。

「現状と課題」といたしましては、近年来札外国人数は増加しているものの、来札観光客数全体は横ばいであって、観光客の入り込み時期にばらつきがあり、年間を通じた安定した集客が必要というような現状と課題が見られたところでもあります。

戦略目標を実現するための「各主体に期待される役割」ですが、市民、NPO等につきましては、「来客を温かく迎えるおもてなしの実践」「地域の魅力づくりへの参画」「ボランティアの育成と自立化の支援」などが期待されるところでございます。

企業等につきましては「観光商品の開発、誘致宣伝活動」「観光客等へのより良いサービスの提供」「観光都市を支える人材の育成」などが期待されるところであります。

札幌観光協会などの関係団体につきましては「内外向けの誘致宣伝活動」「観光関係者

の資質の向上」「観光資源の保護・活用の促進」などが期待されるところであります。

大学などにつきましては「観光（情報）に関する研究者などの人材育成」「集客交流に関する研究情報の発信」「企業、行政との共同調査・研究」などが期待されてくるところかなと思われまます。これは昨年札幌国際大学におきまして、北海道地域観光研究センターというものが設立されまして、大学としてもそういう取り組みを進めている動きも見られますので、大学にもそのような役割を期待していけるのかなと考えていたところでございます。

行政の役割といたしましては、「市民、NPO、企業、関係団体との連携促進や支援」「国・道・他市町村との連携促進による施策展開」などが期待されるところかと思われまます。

これを踏まえまして札幌市としての施策の基本方針ですが「世界の集客交流都市の実現に向けて、観光やコンベンションの一層の振興に努める」「まち全体で誘致・PRやホスピタリティあふれるおもてなしを進め、また、芸術、文化等の資産を積極的に活用し、将来目標として来客2000万人を目指す」という基本方針のもとで施策を展開していったらどうかと考えていたところでございます。

分科会での議論につきましては、分科会でのご議論のなかからいくつかのテーマを参考として載せております。

#### 重点戦略課題：さっぽろの知恵を活かした新たな産業の創出

5ページでございます。「さっぽろの知恵を活かした新たな産業の創出」に関してですが「（仮称）戦略目標」といたしましては、「市内に多数ある大学や研究機関、集積が進んだIT系企業群などを核に「知のネットワーク」が形成され、高い競争力を有する新たな産業が生まれるとともに、様々な分野で中小企業が意欲的に新しい事業にチャレンジし、そこで生まれた新製品や技術が、札幌の高い都市イメージと結びつき「札幌ブランド」として世界に発信されています」、こういう状態を目指していったらどうかというように考えていたところであります。

「現状と課題」といたしましては、大学等研究機関が集積、また、IT関連産業が集積している、市内産業全体の活性化を図っていくうえで、地場製品について、デザイン面など高い付加価値とブランドイメージの構築など新たな戦略が必要ではないかということなどが見られました。

各主体の役割ですが、市民の役割といたしましては「進歩の著しい科学技術に対する理解」「成長分野における起業へのチャレンジ」「ベンチャー企業への応援と投資、情報提供」などが期待されるところであります。

企業等につきましては「技術開発への積極的な取り組み」「大学等との共同研究による製品開発」「異業種企業との交流による新事業分野の開拓」などが期待されるところであります。

大学等につきましては「需要が見込まれる新たな研究分野の開拓」「市内企業との共同研究による製品開発」「研究情報の公開と優秀な研究者の育成」などが期待されるところであります。

行政につきましては、「起業を支援する窓口相談や融資制度の充実」「産学交流の場、産学のもつ技術や情報の提供」「企業同士のビジネスマッチングの促進」などが期待されるところであります。

そして、札幌市としての施策といたしましては、「大学などの研究機関がもつ知の資産と産業とを結び、新たな産業をつくる」「デザイン産業を振興し、札幌ブランドを発信する」という基本方針のもと、施策を展開していったらどうかと考えていたところでございます。

分科会での議論につきましては、これもいくつかのこれまでの議論を参考にして載せたものでございます。

#### 重点戦略課題：アジアの産業ネットワークの拡大

次に6ページでございますが「アジアの産業ネットワークの拡大」に関してであります。「(仮称)戦略目標」といたしましては「多数の市内企業が販路拡大等を目指し、グローバルな経済活動を展開しており、特にアジアとの産業ネットワークが急速に拡大し、観光客等の来客数も飛躍的に増加しています」という状態を目指していきたいと考えていたところであります。

「現状と課題」といたしましては、経済のグローバル化が進展し、市内企業のビジネスチャンス拡大を図るため、海外市場を視野に入れた経済交流の促進が必要といった現状と課題が見られます。

「各主体の主な役割」といたしましては、市民・NPO等につきましては「産業・地域・行政の情報化の推進」「観光ボランティア等の市民参加の推進」「国際コンベンションへの市民意識の醸成」「おもてなしの実践」などが期待されるところであります。

企業等につきましては「異業種・産学官の協働による事業取組への参加」「技術研修生の受入れ、専門家の派遣」「旅行商品の開発、誘致宣伝活動の拡充」などが期待されるところであります。

関係貿易団体といたしましては「国際ビジネスへの業務サポート機能の充実」「企業の国際化を担う人材育成の推進」「インセンティブツアーの積極的受入れ、アフターコンベンションの企画や実施」などが期待されるところであります。

行政といたしましては「アジア経済圏との経済交流の促進」「IT産業における産学官協働によるアジアとの経済交流の促進」「海外における来札誘致宣伝活動の拡充」などが期待されるところと思われま。

これを踏まえての札幌市としての施策の基本方針ですが「経済交流を促進し、市内企業のビジネスチャンスの拡大や技術の高度化を図る」「観光客等の誘致活動を積極的に進

める」という基本方針のもと施策を展開をしていきたいと考えていたところでございます。

「分科会での主な議論」ですが「札幌在住の外国人を大切にして、来訪者を増やすべき」というようなご議論も行われたところであります。

#### 成果指標

最後に7ページです。今回の新まちづくり計画のビジョン編では、成果指標というものも取り込んでいこうと考えているところであります。成果指標とはまちづくり計画に掲げる政策目標の実現に向けて、具体的な目標となる項目を定め、その目指すべき水準について数値などを用いて定量的に分かりやすく示すとともに、政策・施策の成果を把握していくための指標というものでございます。今までの市の実施計画である5年計画の中ではこういった成果指標というものは取り入れられてはいなかったのですが、今回は初めてこういったものも取り入れていこうということで考えているところであります。

新まちづくり計画での位置づけといたしましては、基本目標に掲げる望ましい街の姿の実現に向けて、まちづくりを担う市民・企業・行政などの各主体が協働して、ともに目指していく数値目標になると思われま。行政だけで達成していけるものではなく、市民や企業、行政の協働によって目指していく目標になるのだろうと考えているところでございます。そして、より適切な指標の選定や定期的なデータの把握など、時間をかけて検証しなければならない課題があることから、今回は、試行として位置づけております。

指標項目選定の基本的な考え方といたしましては、重点戦略課題ごとに2～5の指標を設定しています。市民にわかりやすい指標項目を基本としますが、データ把握の可否なども踏まえて選定しようと考えていたところでございます。

右側のほうでは市のほうで、こういったものが指標として考えられるのではないかとということで検討してきたものを掲載しております。このなかのいくつかについてご説明しますと、まず一つめの事業所増加率ですが、これは平成8年から13年にかけてはマイナス1.3%ということで推移してきたわけですが、起業などの活発化による経済活力の向上を目指していきたいと考えてございますので、目標値といたしましては高いハードルかもしれませんが、プラスマイナス0を平成18年度に向かって目指す、これを目標として設定してはどうかと考えていたところでございます。

それから、上から3つ目の中小企業向け融資制度の新規融資額ですが、これは現状平成14年度が638億円でございます。そして、これから市としては500億円の札幌元気基金というものを作って、そして、しかもそれは作るだけではなく、利用されなければならないものだと思いますので、平成16から18年度にかけまして、まずこの平成14年度の実績であります638億円、これは16から18までの3年間維持する、それにさらにプラス500億円がきちんと利用されていくという状態を目標にして、2、

414億円という数字に設定したところでございます。

上から5つ目の札幌圏の有効求人倍率でございますが、有効求人倍率につきましては、札幌だけの数字をとることはできませんで、まわりの自治体のエリアも入っていますが、平成14年度の札幌圏の数字が0.38でございました。全国は平成14年度は0.54だったので、多様な雇用機会、充実した就労支援体制を進めることによりまして、全国との格差の解消を目指していこうということで0.54という目標を設定しています。

それから、中ほどにあります年間来客数でございますが、平成14年度は1,325万人という実績でしたが、この目標につきましては、現在市が取り組んでおります集客交流促進プラン、これは市民一人一人のおもてなしで180万人の集客交流を図っていこうということで考えてございますので、そういったプランですとか、あるいは北海道の観光計画などとの整合性も勘案いたしまして、平成18年度には1,500万人を目指すということを目指したものでございます。

下から4つ目のIT関連産業事業所数でございますが、平成14年度につきましては、282という実績でございます。目標の314につきましては、近年の増加傾向、これは毎年平均7社増加してきていますが、これはこれまでの増加傾向でもありますので、それに市の取組みなどによりまして、1割増しを図る、つまり毎年8社増えていくような形で目標設定しようということで平成18年度には314社を目指していこうと考えたものでございます。

下から2つ目のアジア地域への輸出額であります。これは平成14年には17億円でございました。これも近年増加の傾向にありまして、毎年の平均増加額が4億円でございます。これも市の取組みなどによりまして、1割増しを目指していこうということで毎年4.5億円ずつ増えていくことを目指していったらどうかということで平成18年には35億円ということで目標を設定したものでございます。

説明については以上です。

### (3) 意見交換

内田会長 はい、どうもありがとうございます。他の分科会も基本的にはこういう形になっているんですね。

事務局(調整課調整担当係長) はい。

内田会長 ここに今日提示されているのは、分科会での主な議論を除けば、いわゆる5か年計画のプランとして挙がっているものというふうに理解していいわけですか。

事務局(調整課調整担当係長) 分科会での主な議論を除けば、市が検討してきたビジョン案ということになります。

内田会長 他の分科会でどのように出るかということとはわからないのですが、この間の全体会議のイメージから言うと、この形だとちょっと厳しいかもしれないですね。これはこれとしておいて、いわゆる市民会議の意見という形の報告書をこれを踏まえて作る

ということではできるのでしょうか。

事務局（調整課調整担当係長） これは市側の希望なんですが、市のほうの庁内プロジェクトで今ご説明したような形で検討してきた経緯がございます。そして、検討してきたものが今お示ししたのですが、これについてのご意見を市民会議の皆様からいただきたいと考えています。

それとは別に市民会議としては「これがこの3年間で大切だ」ということをご提言いただくということはそれはそれで是非やっていただきたいと思います。

内田会長 そうではなくて、全体会議のイメージからすると「こういう視点が欠けている」「こういうこともやはりもう少し考えるべきではないか」という形のものを我々が出すことができますが、それをこの中に組み込まれることを各委員はきらうと思います。

つまり、ここで、述べた意見は独立に扱ってほしいというのがたぶんこの間の全体会議での多くの委員の意見だと思います。だから、それはそれとして受けてもらって、それをどういうふうにして扱うかということは庁内で検討するという形をとったほうがいいと思います。

基本的には同じ事なんですが「こういう意見が出ました」というものを別にまとめ、組み込みは任せるという形をとるほうがたぶん合意は得やすいと思います。

事務局（調整課長） 市の側で考える組み込みというのはまさに、市民会議からのご提言を受けて、市のほうで素案をベースにして、その中に組み込んでいくという考え方がですが。

内田会長 しかし、そのときに、組み込んだものが「新しいまちづくり計画です」ということで出すと、嫌がられるのではないかとということです。

そうではなく、もし、折衷案を出すのであれば、この市民会議で出た意見書のようなものが別冊であって、そして、最後にまとめたものを最終的に出すという形ではどうでしょうか。意見がどこに組み込まれているかということを確認するのは避けて、市側としてはそれを組み込んで入れたという形をどこかで認めるという形をとるわけです。

最初から意見が全部組み込まれてしまうということに対しては、抵抗は強いのではないかと感じるのをこの間の会議のときに受けたんです。今はここに書いてある意見が、どこかにすっと入り込むので、そうすると、「私の意見がどこにあるんですか」ということでまた議論が元に戻ってしまう可能性が強くなります。

「こういう意見が出ました」という形のものを我々が作れば、市が修正したものを出したときに「直っていないと思う」という議論が出て、そのときには、我々の意見が残っているので、それをもう一回見てもらうことができます。つまり、組み込んでしまって「入っています」というと疑心暗鬼になるが、市民会議での意見として出たものが別冊としてあるならばそれはそこで一つの意見が表明されているわけだから、そういう形をとったほうがいいという気がします。

あらかじめ組み込んだもので「組み込んだ」「組み込んでいない」という議論を繰り返

すよりは、「組み込まれるべき意見」というものが別冊として存在しているほうが納得されるような気がします。

つまり、何が言いたいのかというと、この間の全体会議の印象では、皆さん参加してやはり自分の考え・意見というものが消えてしまうことに非常に不安を持っておられる。なので、そのこと自体はどこかにきちんと残しておく形をとったほうがいいというのが私の考え方です。それを全部市が取り入れられるかどうかというのは、これは別問題です。なぜかということ、市は全てのことを考えて、全ての予算制約の中で色々なことを考えていくわけですから、その中でどう組み込んでいくかということについてまで立ち入ることは我々にはできません。そういう趣旨です。

事務局（調整課調整担当係長） 少なくとも提言を作るときに、市の素案を修正したような形での提言でなければならないということはないわけで、市の素案は市の素案、市民会議としてはこう考えるということをはっきりと区別して、そして、提言とするということがかまわないです。

事務局（企画部長） 我々もそう考えています。

内田会長 それならいいです。

それを前提にしたうえで順番に見て行ってほしいのですが、まず最初に基本目標ですけども、具体的に言いますが、この「元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぼろ」という部分、言っている趣旨はわかりますが、日本語がちょっと気になるんです。これはよろしいですか。もっと端的に言える、もっとアピールできる基本目標であるべきだと考えてみるとどうでしょうか。

田村委員 これも変えることは可能なんですか。

内田会長 変えることができるというのではなくて、我々はこういう基本目標のほうが望ましいという言い方を提言しますので、市はそのほうがいいと思えば変えますし、市長がその判断をされるということでやればいいということです。

高田委員 もう少し修飾語をつけてもいいような気はします。

内田会長 あまり長くなるのもよくないですよ。

高田委員 今ここで何にするかということ難しいけれど、もうちょっと、さわやかに言えないでしょうか。

内田会長 他のところは比較的いつも言っているパターンでできますが、経済は基本的にはこういう形でキャッチフレーズを挙げたことがないんです。今まさに経済が危機的状況だから挙げなければいけないということだと思いますが。

田村委員 この文章では危機感が感じられません。柔らかいですね。

平本副会長 今この議論のタイミングで発言するのが適切かどうかはわかりませんが、我々のところを含めて基本目標が5つありまして、もちろんこの5つの基本目標が同列に置かれるのはいいと思いますが、一つはまず、この5つを括る大きなキャッチフレーズが必要ではないかということです。それが札幌ブランドがいいのかどうかは別として、

これはビジョンなので、我々がどういう方向に向かっていて、何を作りたいのか、どうしたいのかということが見えるキャッチコピー、キャッチフレーズは必要かと思いません。

それから、もう一つは、この1ページの絵では、基本目標、望ましい街の姿、重点戦略課題という、より広範囲のものからより具体的なものへ絞り込まれているんですが、これは前回の全体会議でも同じようなご意見がでましたが、この3つのカテゴリーの関係性がじつはよくわからない可能性があります。

どういうことかといいますと、我々が仕事で物を考えるときにはいつも、箱と矢印で考えます。何がインプットで、何がアウトプットで、どういうトランスフォーメーションが起こってどうなるのか、そのためにはどこに手をつけたらいいのか、というようなことをよく言うんですが、この1ページの絵に関してそれを言うのは仮に無理であっても、例えば2ページ以降の絵に関しては、戦略目標というのは現状と課題を考慮のうえで出てくるはずなので、背景として現状と課題があって、そこから戦略目標が出てくるという因果関係だと思えますし、その戦略目標をブレイクダウンしていくと、基本施策ないしは具体的な施策が出てきます。そして、各主体の主な役割というのはそこにどういう風に関わっていくかという形で絵になっていないといけないと思います。

今は箱が並列に置かれているだけであって、さらに分科会での主な議論はさらにその付録で付いている形になっていますが、いわゆる箱と矢印で絵になっている必要があると思います。

それから、もう少し細かいことでは、各主体の主な役割、例えば2ページですと、市民、企業、NPO、行政とありますが、この関係がどうなるのかということが分りにくいと思います。具体的に言うと、行政というのはある意味サポーターです。市民や企業、NPOはプレイヤーないしはアクター、大学はリソースを提供するという意味ではサプライヤーかもしれませんし、むしろファシリテーターかもしれません。そのように主体に役割を与えて、主体間の関係を絵にして見せることでずいぶんインパクトが上がるような気がします。

高田委員 それと、プロジェクトができているのであれば、最後のところまでの手法とどうか、実践の段階までそれはできているんですか。ここには書いてありませんが。

事務局（調整課調整担当係長） 計画づくりの順番としましては、まず、このビジョン編というものを作りまして、それを踏まえて次に重点事業編というものを作っていくとしていきます。そういう順番で考えてございますので、具体的に何をやるのかということころは重点事業編のことになります。

高田委員 それはまだ出来ていないんですか。

事務局（調整課調整担当係長） ビジョン編を作ったあとに重点事業編を作るということになります。

田村委員 元気基金にしても、新聞に載っていますね。載ったときにはある程度決まっ

ているから出るのだと思いますが。

事務局（調整課調整担当係長） そうですね。16年度予算の事業については決まっている部分もありますが、この計画では今後16、17、18という3年間でどういう事業展開をやっていくかというときの重点事業編を作っていこうとしておりますので、それはまずビジョン編というものをしっかり固めたうえで、そのビジョン編にきちんと合う事業を組み立てていくということになります。

高田委員 それはいつできるんですか。

事務局（調整課調整担当係長） ご提言いただいた後ビジョン編を作りまして、重点事業編は春から夏にかけて市のほうで作っていこうということになっています。

高田委員 と申しますのは、最後のところの指標がございますね。この指標の中でアジア地域への輸出額というのが倍以上の35億になっているんです。そして、私が1回目の分科会のときにアジアに出向している会社を訊ねたときに確か58あるというふうにおっしゃっていましたが、そういうようなことを含めて、3年計画でやっていたのではこういった問題などは遅いと思います。だからもうどんどんやっていかなければならない。例えば中国ではオリンピックがあるわけですから、それまでの間の中でどんどんやっていかなければいけないわけですから、そうだとすると中小企業などは業種ごとに一度全部整理して、いろいろな形で情報のキャッチをすることです。発信ではなくて、キャッチをすることです。

そういうことを早急にやらなかったら、全体が沈んでしまうと思うんです。だから、そういう部分でのスピードを持ってやらなければいけないのかなと思っております。

事務局（調整課調整担当係長） ちなみに、先週の全体会議のときの資料10に計画づくりのスケジュールなどが書いてございまして、重点事業編は6月に素案を公表します。

田村委員 市のほうでもうすでにこれにもとづいて作っている16年度なら16年度分のものがある程度あると思います。それを見たいという気がします。

あと残り3年というときに、また来年度、その次の年度で若干微調整していくというか、悪いところは投げていくというぐらいの勢いでやっていかないと、早く対応できない。結局ずっと何年計画で立ててきた内容をそのまま変わらないで実行しているから今みたいな現状があるんだと思うんです。

それをできれば16年度部分について情報提供してほしいと思います。それにもとづいて同じような基本目標で若干調整したもので、こちら側の意見をまとめていく。個人的にはそれを望んでいます。

内田会長 問題ないところでお出しすればいいのではないかと思います。

それで、ちょっと確認したいのですが、ここの望ましい街の姿、重点戦略課題というのは、これは3年間の話ではないですね。

事務局（調整課調整担当係長） はい。

内田会長 つまりこれはいわゆる中期計画の考え方ということで理解していいですね。

事務局（調整課調整担当係長） この望ましい街の姿につきましては、3年後の姿をイメージしたものではなくて、本当に理想的な姿としてどういうものが望ましいのかということとを共有しようということでございます。

それから、この「(仮称)戦略目標」ですが、目標という名前ではありますが、これも目標というよりはむしろ、重点戦略課題ごとにどういう状態が望ましいかという状態を書いたものです。名前がふさわしいかどうかということもあるので、(仮称)としております。

施策の基本方針以下はこの3年間で何をやっていくかということです。

内田会長 我々としてはこれを提示されているので、先ほど基本目標はどういう表現にするかというのは宿題に残しましたが、他の目指すべき将来像等についても、もう少しこうしたほうがいいというようなご議論があればお願いします。

ここに書いてあることは、札幌のとりわけ経済的な現状にどうしても引っ張られますが、起業、競争力を持った産業、それから、国内外に発信できるような技術等があるということ、また、多様な就労機会があるということ、それとは独立して観光というものが一つの柱として掲げてあります。

そこに特徴があるという形になっているわけですが、細かい部分は別にして、札幌の経済・産業というときに、そういうポイントでいいのかどうかということを確認していただきたいと思います。

高田委員 あまり先の細分化した手法の問題に入っていくてはいけませんか。

内田会長 順番でいきましょう。望ましい街の姿、つまり札幌がこうであったらいいなというのは誰もが漠然と思うことです。私が聞いているのは見落としている視点がないのかということと、観光を他のものとは独立させ、ある意味優先している、力点が置かれているということについて問題はないかということです。

そういう市の提案に対して、我々市民会議としても将来的にそうすべきということでもいいのかどうかということを確認しておかないといけません。その将来像になるように我々は努力するという形になるわけですから。

高田委員 例えば「四季を通じて」と書いてあります。私もこれには賛成ですが、これは私の申し上げた藻岩山の植樹の話にもつながっているのでしょうか。私の申し上げたことを実行の段階にも念頭に置くという意味の言葉としてこれを掲げているのか、ただ「四季を通じて」ということで掲げているのか。後半部とのつながりもあるので、その辺りの把握はどうすればいいでしょうか。

内田会長 高田委員のご理解のように「四季を通じて」という言葉を入れておいて、後半にそういう話を入れるべきだというおっしゃるのは全然問題はないと思います。ただ、ここで「四季を通じて」といっているのは、経済的なことで、来客が夏に偏っており、11月などはとりわけ少ない、そういった意味で安定した来札客を望んでいるというのが本旨だと思いますが、この文章をどう読むかというのはそれぞれなので、それはかま

ません。

11月の来札客数は非常に落ち込みます。11月はじつはあまり連休がなくて、札幌の場合紅葉も終わっているのです。他の県では11月は紅葉で集客があるんですが、札幌はそれがないんですね。

高田委員 私はじつはうれしく思っています。ここに書いてあるとすれば、実践されるのだろうなと思っているので。

内田会長 これには基本的な単語は入っていると思います。ただ、もう一つ今の市長という意味合いでいうと、多様な就労の機会ということでは載っていますが、女性の働く場の改善ということを実は札幌市がもっと積極的に言ってもいいのではないかと思うんです。女性の参画ということに対する認識をもっと強く意識したほうがアドバンテージがあると思います。無理やり審議会などに女性を入れるのではなくて、自然に女性が社会に参加できるような仕組みを考えていくということ、スローガンではよくあっても、具体的にやっているところは意外と少ないです。

女性の就労は少子化問題にも関わってきます。少子化と単純に言ってしまうよりも、女性の活力を活かしていきたい、女性が活力を持っているような街でないとこれからは生きていけないという認識のうえに立って、望ましい街の姿の中に女性の就労について書いてもいいのではないかと思います。これは個人の意見ですが。

高田委員 「女性を」というとまた少し引かかるような気がします。

内田会長 意図的ですが、私は「多様な就労機会」という意味が少し弱いというか、曖昧な気がしています。もう少し限定するとか「札幌市は本当にそれをやるんだ」というメッセージがあってもいいのではないのでしょうか。

高田委員 それはとても大事ですね。

平本副会長 例えば、「特に働く女性が」「特に起業支援」「特にIT」といった書きかたで特徴を出すとか、重みづけを明確にすることもビジョンの重要なポイントだと思うんですが、それをどこまでここで言ってもいいのかどうか。かなり個人的な好みも反映されるような気がします。

内田会長 だから、私は「別で」というふうに言ったんです。

高田委員 私は女性の立場として、女性という言葉を入れてほしいですが、それには少し違いがあるような気がして、男女が共同してという形の多様な就労の機会があるというほうが私は最も違和感がないような気がします。

内田委員 私は男女共同参画はやはり女性が負けてしまうような気がしています。「女性が主導権をにぎる」ぐらいの主張じゃないと男女共同参画までいかないんです。高田さんみたいな人がどんどん出てこないといけないんですね。

高田委員 本当はそこまで言いたいところですが、それを言ってしまうと終わりという気もするんです。先生のような考えの方がいらっしゃることはうれしいことです。それと、雇用の問題で、生活保護と母子家庭の問題も含めて、就労の場がないものです

から、そのあたりの記述も少し入れていただければなと思います。

田村委員 国内・海外からの多くの観光客が訪れるとともに、というところで、観光客だけではなくて、実は定住してくれるような外国人が増えないと他の経済活動にも発展していかないと思うので、そういう部分を入れていただければいいと思います。安心して外国の人が暮らせるまちとでもいいですか。

内田会長 たぶんそういうことは他にも載っていないですね。

私が先ほど言ったことで、ここでは観光が一つの札幌市の柱として独立して打ちたてられているが、そのこと自体はよろしいですか。「観光のまちなんかにしたくない」という意見が我々の中にあるかどうかということを確認しておきたい、というのが私の趣旨です。

工藤委員 私も違和感があるような気がします、うまく表現できません。ここの分科会の基本目標があって、その望ましい街の姿の中に特化して観光というものがあるということは、観光客の受け入れによって、元気な経済が生まれ、安心して働けるまちになるということなんでしょうが、観光客が頻繁に訪れるということが地域経済の活性化に結びつくというのと、他に国際都市というようなイメージもあるのかなと思います。

経済・雇用というところだけを見れば、先ほど高田さんもおっしゃっていたパートの問題や女性の就労の問題のことも入れるべきだと思いますが、どういう入れ方がいいのかということを考えていました。

人間困ったときにどうするかということが一番大事なことなので、生き生きと働ける街、起業にチャレンジできるまちであるとともに、失敗したときのセーフティネットというものがきちんとあるというその2本立てがあって初めていいまちになるようなイメージがあります。女性の就労ということの内田先生があえておっしゃったのは、女性はパートでしか働けず、低賃金で条件が悪い仕事にしかつけないという現状があるからこそ、そういうものを入れるべきではないかというヒントじゃないかと私は思ったので、やはりここにそれを入れるべきなんだろうと思います。

高田委員 3ページがその問題に当たるのではないかと思います。3ページに雇用の問題が出ていますから。

工藤委員 望ましい街の姿というときに、その部分をやはり入れたほうがいいのではないかと考えたんですが。

高田委員 私はそこは「男女が共同して」という言葉のほうが適切なのではないかと思っています。今おっしゃった国際都市ということはここに入れたほうがいいと思います。

田村委員 ちょっと整理していいですか。ようするに観光客が訪れるというこの部分は経済で強く打ち出すのではなく他の分野じゃないかということですよ。

内田会長 ここでは、それを経済に限定しています。観光を札幌市の活性化の目玉にするということがはっきりとここに出ている。それでよろしいですかということをおっしゃったわけですね。

そして、今田村さんが言ったことと、工藤さんが言ったことは同じであって、定住している人もいたほうがいいのではないかとということです。

つまり、そういうことを膨らませていくと国際都市だということになります。それとは次元が違うんですね。ここで言っているのは、観光客で経済が活性化する、お金が落ちる。観光を産業の柱にしたいということです。つまり、はっきり言うと、京都などと同じぐらいのレベルに持っていきたいということです。やるならそこまでやらなければいけないんです。そこまでやる意識を持つのか持たないのか。

平本副会長 観光という言葉の定義しだいでずいぶん変わると思います。京都やディズニーランド、そういうものも観光かもしれませんし、例えばそれが札幌であると。それは別に神社や仏閣があるわけでもない、アミューズメントパークがあるわけでもないが、札幌に行くと非常に心が洗われるとか「なぜか知らないけれどあのまちに行きたくなる」札幌、そういう観光も仮にあるとするならば、目指す観光が何かということで、これがまさに産業の柱の一つになることはありうると思います。

ただ、ここでは観光とコンベンションが並列になっているので、ここで言っている観光はまさに京都型の観光だと思いますが、これは本当に札幌というまちをどういうまちにしたいのかという根幹のところに関わることだと思えます。

ここに来ると癒される、安らぐというのも、目には見えなくても立派な観光だと思います。具体的にどうやるかということは非常に難しいと思いますが。

今私が申し上げたような観光ならば、柱になりうると思います。ただ、ここでそこまで謳うことがいいのかどうかということ、そういう読み方をしてもらえるかどうかということはまた別問題だとは思いますが。

事務局（観光振興課計画担当係長） 私どものほうでこういう表現をしたのは、根底にあるのは、札幌市の目指す都市像が、集客交流都市であるということです。ビジネスであれ、観光であれ、様々な目的で多くの人に外から訪れていただき、実際にそういう方々と交流することによって、また新たな文化が生まれます。

ここで「とともに」と書いているのは、まさに観光とコンベンションを2本の柱立てにして、ビジネス客も含めた形でより多くの人を招き入れたいということが根底にあり、両方の文脈でここに書き表したつもりなんです。観光客という中には従来型の観光客もいますし、新しいニーズを求めて来られる方もいらっしゃるもので、そういったものも念頭には入れておりました。

また、少し補足させていただくと、コンベンションの部分で、札幌コンベンションセンターが今年の6月にできましたが、そこにはいろいろな学会や学術会議などで、世界からいろいろな方が来られています。そうした方々、例えばノーベル賞を受賞された学者の方が来られて、そこで講演会を行うなど、将来の子どもに向けた情報を発信することによって、将来の科学者が生まれたり、そういった意味での新しい文化なり、子どもたちの育成につながるのではないかと。そういうことも含めて、まちが活気に満ちていく

という理想像を掲げてはどうかという思いでここは書いております。

内田会長 全然それでかまわないのですが、ただ、文章は精査するほうがいいということと、工藤委員が言われたことが実は基本目標のところに対応していないので、やはり入れるべきだと思います。

つまり、安心して働けるまちということが基本目標に載っていますが、それに対応する望ましい街の姿のところはその記述がないんですね。「元気な経済」の部分は活気があふれるとか、起業があるという記述がありますが、「安心」の部分の記述がない。「安心」ということを基本目標に掲げるのならば、望ましい姿の中にそのパートが少し加筆される必要があります。それ以外のところについてはあとは文言の問題かと今までのお話を聞いている限りではそう思います。

高田委員 他の4分科会はどういう形になるのでしょうか。

内田会長 どういう形になるか、私も不安があるんです。それぞれの部会長さんの個性が出るので大体予想はつきますが、まとまりは欠くでしょうね。ただ、それはそれでいいんです。だから、そういう意見をきちんとした形で残しておく形をとりたいということです。

そうすると、基本的には重点戦略課題はちょっと抜きにして、提示された素案に対しては基本目標のところを少し直すということで、これは我々自身にも課せられた宿題になります。望ましい街の姿に関しては、基本的にはここに取り込んである要素は問題ないということで、文章をもう少し直していただくということと、安心して働けるという基本目標に相当する望ましい街の姿の記述がないので、その記述を加えるということで、この1ページについてはそういう形にしたいと思います。

それで、重点戦略課題が次の5ページにつながるわけですが、課題のくくり方はこういうくくり方でいいかどうか。これは非常に大事になります。

平本副会長 望ましい街の姿は長期目標ですよ。それに対して重点戦略課題というのは、今回の我々に課せられた3年以内のスパンでできることを重点的に掲げるという趣旨なのではないでしょうか。

内田会長 これは「ビジョンができた段階で次に」という形ではないのだろうか。これは3年間ですか。

事務局（調整課調整担当係長） この重点戦略課題は今後3年間何を重視してやっていくかということです。

事務局（調整課長） 戦略目標というのがもう少し長いスパンです。

事務局（調整課調整担当係長） 各重点戦略課題ごとに記述されている戦略目標は3年後ということではなくて、理想的な社会はどういうものかということを示してあります。

内田会長 そうすると、この書き方は、望ましい街の姿の次に戦略目標が並んでいるほうがいいんじゃないですか。文章がたくさん並ぶようにはなりませんが、その次に重点戦略が来る。

平本副会長 重点戦略課題だけが少しレベルがずれているんですね。

事務局（調整課調整担当係長） この「（仮称）戦略目標」のところは必ずしも3年後の状態をイメージしたものではなくて、もう少し先を見てどういう状態が望ましいかということイメージして書いたものです。5つの重点戦略課題は今後3年間何を課題として認識してやっていったらいいのかということを書いたものです。

平本副会長 だとすると、本当は「（仮称）戦略目標」は左上にこないで右下といますが、ゴールのところに書かれるほうがわかりやすいでしょうね。

事務局（調整課調整担当係長） ゴールと考えるか、ここではそういう状態を望ましいと考えるので、そのために何をやっていったらいいのかという順番で書いたものです。

平本副会長 あるべき姿と現状とのギャップを認識するためにここにあるということですね。

それから、何年後のあるべき姿かということはあったほうがいいのかもかもしれません。どれが何年スパンかわかるような構成にさせていただけると我々もビジュアルで直感的に理解しやすいと思います。

内田会長 望ましい姿は本当に長期安定的な現時点で描く姿。その長期の姿を項目別に分けているのが「（仮称）戦略目標」になっています。そういう意味で、基本の目標、望ましい姿、そして、それぞれの細分化した目標としたほうが分かりやすいし、誤解を招かないのではないのでしょうか。それを受けて、重点戦略課題が次から並んでいく。

並べ方の問題ですが、見せ方としてはそのほうが素直ではないでしょうか。つまり、重点戦略課題が望ましい姿の直後にいきなり載っていると、重点的に絞りに絞ってしまっているという感じがします。

市のほうではもう大体頭の中にイメージが描かれているので読めるでしょうけれども、今までの会議の進み方を見たときに、そういう理解がなかなかされないという中で、いろいろな齟齬が生じたと私は理解しているので、やはり丁寧な表わし方のほうが、いいと思います。

それでは、2ページ以降に進んで、分科会での主な議論というところを最初に見ていただきたいのですが、ここはそれぞれの部分で本当にいいかということを知りたいと思います。現状と課題の認識については、ご質問もいただいたし、それぞれ理解したと思います。あと、基本方針、施策については、もう一度きちんと見なければいけません、漠然とした形で議論されたことがそこに載っているという形になっています。

平本副会長 冒頭に内田先生が言われたように、重点戦略課題のくくり方はこれでいいのかという議論もあると思いましたが。

内田会長 忘れていましたね。それは大事です。こういう課題がいいかどうかということが一番のポイントになります。

平本副会長 例えば1ページをご覧いただきたいのですが、重点戦略課題の一番目にある「中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援」というものの中には、すで

にある中小企業に対するパフォーマンスと、これから起業しようとする二つの話が入っています。

それから、例えば4番目に「さっぼろの知恵を活かした新たな産業の創出」というものがあるので、すでにあるものと新しく作るものとを分けるほうが分かりやすいのかどうなのかということが一つあります。

そう考えると、すでにある中小企業に関しては、2番目の箱である「安心して働ける環境づくり」というのは、中小企業が健全に経営を続けることができれば当然それは安心して働ける環境を提供していることになりますから、その2つをくくるほうがイメージとしてはわかりやすいのかなと思いました。これはあくまでも私の個人的な意見です。あるいはここでそういうことを言いたすと今後の議論が進んでいかなくなるかもしれませんが、いかがでしょうか。

内田会長 くり方のプリンシプルみたいなものがあるかどうかということだと思います。

基本的にはここに挙げてあるものの要素に対しては反対はないと思います。もう少しインパクトのある、具体的なところに持っていきやすい捉え方をしておいたほうがいいのではないかとそういう指摘だと思います。そのほうが市民会議としても分かりやすいし、今度事業になったときにも分かりやすい、そういう意味合いですね。

ただ、一番上が市民も企業も小さいレベル、それから、大きくりの産業へということで、このくり方の意味合いも読んで取れるんですね。

もう少しインパクトがある形、あるいは行政がやりやすいくりをどう考えるかということだと思います。

平本副会長 ストーリー性みたいなものだと思います。例えば「つくる」「はたらく」「さかえる」というような成長のプロセスや発展のプロセスが見えるようなストーリーが背後にあって「何でもこう並んでいるの」と聞かれたときに実はそういう思いがあって、それでこういう形に並んでいるというようなまさにプリンシプルがあると、説得力を持つと思います。

今内田先生がご指摘いただいたように、よりミクロなものからよりマクロなものへというストーリーになっていることもありますが、どちらが見せ方として面白いのか、ないしはより魅力があるのかということだと思います。

私個人としては「何か新しいものが生まれる」「既存のものがうまくまわっていく」「トータルで発展していく」「ここで働く人は安心して働いている」というようなストーリーがあったほうが、重点課題としてはインパクトがあると個人的には思います。

内田会長 「(仮称)戦略目標」がここにすれば、うまくいくのかもしれないですね。

高田委員 私は分け方としては中小企業、零細企業の今の困難な問題点を2ページで把握しているのではないかと考えています。また、それに関わる雇用の問題を3ページに載せているのだらうと思いますので、特に違和感はありませんが。ここで観光を柱とし

たということは、中身はまた別問題として、これはこれでいいと思っております。

それから、この産学共同としてのIT、技術開発の問題、共同研究の問題を載せたということですね。そして、今はやはり生産と需要の問題の中で、市民の購買力を伸ばすと言っても、少子化の問題を含めていろいろなことで購買力が上がらないとすれば、やはりアジアの産業のネットワークの拡大ということも大事な問題でないでしょうか。そういう形で分けられたのかなと思っております。

内田会長 これは完全に一委員としての意見ですが、行政の場合、各主体の主な役割というものを必ず書きますが、これがどうもおせっかいのような感じがしてしょうがない。つまり、皆で何かをやるというときに、「あなたたちはこうなさい」という言い方になっている。市民全体を巻き込んでやっていかなければならないという意味合いと、役割を押し付けるというのとは、少し違うような気がします。

NPOや企業の中にも他のNPOや企業を支援することなどはいくらでもあることで、行政に限られることではありません。むしろそちらのほうが望ましいわけです。行政自身が起業へのチャレンジをすることも意味可能です。

だから、そういう風に限定してしまうことで活力がそがれてしまいます。今多くの方がいろいろなことをやりたがっています。それを限定しないほうがいい。固定化してしまうということが今の日本に硬直化を生んでいる原因なんです。多様性を認める世界を作っていくことがこれからの一番大事なことで、ワンパターンで押し付けるということはこれからは無理なことです。

象徴的な言い方をすると、高度成長のときは皆同じで同じく紅白を見て、同じく年を越して、それでよかったんです。そうではなくて、今は正月一つとっても生活スタイルはどんどん変わっている。これは私の好みですが、役割を押し付けられることには違和感があります。

事務局（調整課調整担当係長） 望ましい状態を皆で共有して、それに向かってどんなことができるか考えようということが趣旨ですが、今お話があったように、それによってかえて役割が固定化されてしまうということは私たちとしても本意ではありません。

内田会長 もっと多様な生きかた、多様な就労の仕方、多様な支援の仕方、そういうものが沸々としてくるような未来像、将来像というのが望ましい都市像だと個人的には思っています。

いろいろな概念を固定化する、例えば市の職員はこうしなければならないとか、そういう考え方を持ってしまふところに閉塞感があるような感じがします。

高田委員 私も考え方としては同じですが、市民を一番上に持ってきて、行政を一番最後に持っているところにたぶんいろいろとお考えになりながらおやりになったのではないかと思います。易しく分かりやすく書いたのではないのでしょうか。

平本副会長 私は内田先生のその精神的な部分には大賛成です。ただ一つだけ、3年間でそれをやらなければいけないということが仮にあるならば、役割を限定することも必

要だと思いますが、それはたぶんこの提言書の目的ではないですね。

内田会長 あとは、分科会の主な議論がこのまとめかたでいいかどうかということを確認しておかないといけません。ご自分が発言したところで今のうちに指摘すべきところは指摘してください。

高田委員 私はこの分科会の主な議論のまとめ方は少々大味かなという気がしています。ですから、もう少し細やかに、例えば、先ほども申し上げましたが、情報の発信だけではなく、情報の入手、中小企業がどれだけ困っているのか、それから活発にやっているところはどういう形でやっているのか、いろいろな意味での起業の業種別の整理をすべきではないでしょうか。その中からいろいろな新しい事業の問題というものも出てくるのかもしれない。また、零細企業の非常に厳しい部分も元気基金をどうまかなっていくのかという問題もあります。そうすると、中小企業全体を見るのではなくて、業種別に専門分野の中で調べていく、これが非常に大事な仕事だと思っております。

それを申し上げましたが、ここには書いてございません。

田村委員 今話していることが、提言書にまとまるわけですね。そのまとめる作業は市の方にさせていただくということになるんですか。

内田会長 はい。

田村委員 それはこのフォーマットに基づいてということですか。

内田会長 いいえ。フォーマットは我々のほうでこういうほうがいいという形のは設けることは可能です。それがどう組み込まれるかは最終的には市の人を考えるという形になります。この基本目標の部分は我々の宿題としてやります。

望ましい街の姿に関しては、先ほどの「安心して」という部分のパートが抜けているので、それを市のほうで入れて書いてもらい、それをここの分科会としてよしとするならばそれでかまわないということです。

重点戦略については、ここの表は変えてもらいます。ただ、ここまでは今までのご議論の中で大きなタームと考え方については、先ほどの安心の部分の部分が抜けているというところを除けば、文言の問題だったので、ここで修正できるなら修正しておいたほうが市の人もやりやすいだろうというのが私の考え方です。

ただ、この次からは具体的な話になりますから、こういう形でいいかどうかということは別問題です。ただ、最低限分科会での主な議論ということは確認しておいてほしいというのが私の趣旨です。

そして、もし、この表記の仕方自体にも新しいやり方があるというのであれば、今は難しいですが、次の会議のときにそれを分科会として決めなければなりませんから、ご提示願うという形をとらざるを得ないと思います。それで、分科会としてどういう形にするかということを決めたいと思います。

高田委員 「安心」という言葉を入れるのでしたら、この前の全体会議のときに「安全」という言葉もありました。それと「国際都市」という3つを入れていただけるとありが

たいと思います。

内田会長 働くという意味での「安心」は一種固有の用語になっていますので、ここに入っているんですね。確かに危険な場所で働くのはよくないという意味での「安全」ということはあるかもしれませんが、「安全」というのはもっと広く、まち全体での安全という意味合いがあります。

それは他のところに入れてもらえるといいですが、そういうのがないとすると、これをまとめるもっと大きいまちの像みたいなものがあるほうが集約されるということはあるかもしれませんが。それぞれのところに共通しているキーワードで全体を押えておくという作業はしておかないといけないと思います。それを念頭において進めていく必要があります。

それぞれの分科会の議論を集中してやっておられるので、全体で何をしたらいいのか、札幌の全体のまちづくりのイメージが見えない形になってしまっているのではないかと思います。これはビジョン編なので、もう少しその意味を意識したほうがいいと思います。

そして、今度事業編になったときに具体的な形をとったほうがいいと思います。そうしないとまとめるのはものすごく難しいと思います。

田村委員 我々がまとめる提言書と市のほうでまとめられた提言書があり、それが見比べられるようになっているといいと思いますが。

内田会長 それが一番理想的ですね。

田村委員 この分科会での主な議論をこの施策や基本方針などに反映したものを文書化していかなければなりませんね。

内田会長 我々がこれを全部組替えて作り直して出すというのと比べられるようにするということですね。だけど、それをやることは個人的には時間もないのでできないとすると、つまりここでの我々の意見がどういう意見だったかということを残しておくという形になります。

ここで皆で手分けして資料を全部作りかえましょうという形であればそれはかまいません。

田村委員 我々もこの活動に対して責任を持たなければいけないと思うので、それこそ名前を入れてもいいぐらいの物にすべきだと思います。そう考えたときに意見をまとめられたり、省かれたりすることにはとても納得できません。きちんと我々の意見を反映させたものが対比できて、最初のものからこの部分は市民会議の意見を取り入れて、こう変えましたということが赤ペンでわかるぐらいでないといけないと思います。市民の人が市民会議の委員の人たちが検討してこういう風になったんだということがわかるぐらいのものにしていかないと、結局は同じものになってしまう危険性があります。私は一委員として公募で申し込んで、入ってきた以上は責任を持ってこの仕事をやりとげたいと思っています。そういうものにしたほうが子どもにもわかるし、これから世の

中にでてくる高校生や大学生にもわかりやすいと思います。

内田会長 ただ、分科会としてまとめなければいけませんから、各個人個人が何を言っ  
てそれがどこに組み込まれたのかということまではやはりできないと思います。

イメージとしては皆共通でも、具体になると分かれているわけです。その分かれたも  
のをまとめるということを我々が今から1か月ぐらいでやるかどうかということを決め  
ればいいだけのことです。

田村委員 ぜひやってほしいと思います。

内田会長 やってほしいといっても、分科会で出た意見について、どこをどう直したら  
いいのか、どこが違うのかということが具体的に意見がでないことには先に進めません。

それで、もし、大きな齟齬がないのであれば、この分科会での主な議論を修正し、例  
えば修正した個所がアンダーラインやゴシック体で書かれる形になるというのが、それ  
が折衷案になります。我々の意見がどう反映されたかということを確認したいというこ  
とになれば。

工藤委員 ここに載っているものに対しては補足はありますが、私は自分が発言したこ  
とは表現されています。ただ、この間の全体会議のときに配られた資料の経済・雇用分  
科会のところで、行政サービスのアウトソーシングを進めるということがあちこちに書  
かれていたのに驚きました。そのときは分科会で再度確認できるので言いませんでした  
が、行政サービスのアウトソーシングは安心して働けるということに直結していると思  
うので、すごく注意して進めなければいけないことだと思っています。ここには載って  
いないので、復活することはないかどうか確認したいのですが。こういう話は分科会  
では出ていなかったと思います。

高田委員 例えばアウトソーシングとはどういう問題があるのかというときに、雇用の  
ミスマッチの問題で職業訓練というのがあると思います。国の職業訓練だけでいいのか  
どうか。市としてはどうするか。市が職業訓練士を作るとするとそれはまた大変な話な  
ので、そういう意味でのアウトソーシングというものはありうるかなと思っております。

内田会長 工藤委員がおっしゃっているのは正論で、一度もここではアウトソーシング  
の議論はしていません。

ただ、逆の意味で、このまちづくりの市民会議の始めに資料がほしいと皆が言い、議  
論したことがあるんです。「市の財政はどうなっているんだ」ということです。今回の全  
体会議でじつはその点からの議論が一つもなかった。市の財政が非常に逼迫しているの  
で、アウトソーシングは逆の面から言うと、そういうことなんです。それ自身が雇用を  
不安にさせるというのが今の工藤委員のご議論ですね。

しかし、最初にあれだけ市の財政がどうなっているんだ、というご議論があったにも  
関わらず、どこからもそのことに触れた提言がなかったんですね。むしろ市の財政を  
圧迫するような形の事業をやらざるを得なくなる可能性がたくさんある提言になってい  
た。

それを財政で、つまり、経済の活性化で補えるぐらい、経済を活性化しなければいけないという全体像であれば、整合性があるという形になりますが、そうはならない。とするとどう考えるのか。

「まちづくり」というときに、我々も行政と同じことを言っているんですね。つまり、やる事業が違っただけであって、同じように事業を並べて終わってしまう。これは避けなければいけません。

私が言っているのは、だからアウトソーシングをしなければいけないというのではなくて、工藤委員がおっしゃるように、それは雇用の問題と密接に関わっているので、そういう具体的なところまで下げて議論しなければいけないんですが、全体会議のときにはそういう形にはなっていなかったんです。

具体性というときには、事業そのものの具体性ではなくて、本当に市全体のお金の回り方や、人の動き方といった全体を見なければいけないので、全体会議を真ん中に置いたというのは、そういうことが皆さんに意識されているのかと思ったんですが、そういう議論にならなかったというのはまとめる立場としては逆に楽であったという形になってしまいました。今の工藤委員の一番目のご意見に関しては我々のなかでは議論していないので、フライングだったと思います。もし、行政サービスのアウトソーシングをいうのであれば、市の財政が非常に逼迫しているなかで、このまちづくりというものをどういう風にしていったらいいのかということをごどこかで議論しなければいけません。それは、ここだけの問題ではなくて、全ての分科会に共通することになります。

高田委員 土地の問題といったことまでこの会議が議論すべきかどうか。これからどうするかといっても、プラス思考だけではなくて、負の遺産についてどう考えるべきかということもとても大きな問題だと思っております。

また、農業の問題もあります。札幌の農業をどうすべきかということも私が1回目が2回目に言いましたが、土地をどうするかということも踏まえて考える必要も出てきます。このようにいろいろな問題がでてくるわけですが、そういうところまではまり込んでいいかどうか。先生いかがでしょうか。

内田会長 はまり込むのが望ましいですが、それはすごく時間がかかるので難しいと思います。

そういう問題は別に市長が設けた市民会議があるので、そこで議論がなされる可能性が高いので、我々のところで議論がなかったということ踏まえた上で、そちらにお任せすればいいというのが私のこの間の中間の全体会議での発言を聞いて思ったことです。

我々としてはこの計画に実効性があるかどうかというところの問題は大きく取り上げていなくて、安心して働けるまちにしていかなければいけない、そのために我々ができることはどういうことかという形で順番に考えてやっているという形になっています。そこでお金の問題はどうするのか、それは皆で考えていきましょうと言うしかない形になっていると理解すべきだろうと思っています。

市の中のそういう仕事のありようとか、そういうことについては、ここでは触れない形になっています。つまり、市の計画に関しての優先順位をどうするか、そこにもれているものがあるのかどうか、間違っただけで計画をしているのではないか、そういう点をチェックするというのが、この新まちづくり計画の我々の役目とこの間の中間会議でそう理解しました。

高田委員 でも、一番最初にその話はしたはずですが。

内田会長 それは、「どうなってますか」という実情を理解したのであって、それに踏み込んで市はこうすべきだという形ではご議論はありませんでした。

それで、田村委員はこれを作り変えたほうがいいということですか。

田村委員 できればなんですが、時間もないので、資料について修正すべき部分を委員個人個人で考えて羅列して、それを市の方にお渡しして整理してもらい、次回皆で「選択しよう」とか「選択しない」という議論をしたほうが、市が作った提言書とは別の1冊の提言書ができるのではないかと思います。

内田会長 一番最初のもの、市側で修正したものがあって、この分科会でそれでよし、我々の意見が組み込まれているというものができればそれを我々の提言書の原案という形にする、そういう形をとるとということですか。

田村委員 ちがいます。私の意見ですが、我々がこれを持ち帰って、修正すべき部分を検討し、それを集約します。集約したものを次回の会合で選択していきます。それで1冊提言書ができます。それとは別に市のほうで元々のものを修正したものが1冊できるという形になります。

内田会長 それでいいですよ。私が言いたいのは、私がそれを全部直してワープロを打ってということができないので、市の人にここでの発言を入れてもらいます。それは個人の意見ですから、それが分科会の意見としていいのかどうかをチェックする。チェックされたものを分科会のビジョン編として作成しますということです。

事務局（調整課調整担当係長） ちょっとよろしいでしょうか。市のほうで提示したものに各委員の方が直したものを組み込んで出すというようなお話もあったんですが、それは我々市のほうで出した素案、そちらのほうを修正する作業が組み込まれることになるという趣旨でしょうか。

内田会長 市のこの案を基本的には修正することになりますね。

事務局（調整課調整担当係長） 委員の方が持ち寄られたものをまとめる部分についてはそれでいいかと思いますが、ただ、市のほうで出している素案を修正する作業が提言の中に入るのかどうか。

内田会長 修正する部分というのは、新しい提言書という形になります。例えば、基本目標の文言を変えてほしいと言われましたよね。

事務局（調整課調整担当係長） そういうご意見については、それでいいかと思いますが、例えば、市の素案として具体的に示している文言がありますが、その文言をこの

ように直しましたということを事務局として提示しなければならないのかどうかということですが。

内田会長 基本目標は我々の宿題なので、事務局でやる必要はありません。我々のほうで案が出てこなければ、意見はあったが、具体的な指摘はなかったということでおわりです。

2番目の望ましい街の姿に関しては修文してください。ということを行いましたので、そちらで出したものを我々がよしとすれば、我々の案としてそれを認めますということです。次の個別のところに関しては、じつはこの分け方についてはこれでいいのかどうかについては何もご議論がなかったので、今の段階ではこの分け方そのもの自体には大きな問題はないと理解します。

それぞれのページにある具体的な特に施策の部分は、ここをこういう形にしたいという自分の意見を次回までに事務局に出してくださいということです。事務局には単にその作業をしてもらいます。そして、出てきたものは個人の意見ですから、それが分科会の意見としていいのかどうかはここで議論します。それ自体は私たちの施策案という形で別冊で作る形になります。

それをどういうふうにして最終的なものにするかということについては、我々の意見を取り入れるかどうか、市長が決めるわけですから、「こういう形です」と出すことになります。

事務局（企画部長） この間の全体会議で示したパターンでは、市の素案に対する意見というのは、例えば左側が市の意見、右側が修正していただいた分科会の意見という形で見やすく出すということだったと思いますが、それは全体会議でお話いただいた一つ目の部分でした。

もう一つの部分はその他に独自の視点でのご提言があればそれを出すということでした。その部分もお作りいただけるのでしょうか。

内田会長 それはあれば作らなければいけないのですが、今日の感じではそういうものは今のところうちの分科会では見えないという気がしています。

田村委員 札幌市と道の関係はありますよね。

内田会長 それはありましたね。

田村委員 それ以外にも私は実はこれよりもっと重要なことがあるじゃないかという意見がいろいろあるんです。そういうものは意見として次回出したいと思います。

事務局（調整課調整担当係長） 細かい確認になりますが、望ましい街の姿でもう少し安心に関する記述があってもいいというお話でしたが、それについての修正案をいったんこちらで作って次の会議で皆さんにお示して、それでよければ分科会としての意見になるということですね。

内田会長 そうです。本来は私が考えて作らなければいけないんですが、私が今はちょっとできないので。

高田委員 安心、国際都市、男女共同参画という3つの文言ができましたね。

事務局（調整課調整担当係長） それは、元気な経済が生まれ、安心して働けるまちさっぼろの望ましい姿の中にいったん入れる形で考えればいいでしょうか。

内田会長 国際都市については表現の仕方だけなので、文章の修正のみで良いと思います。

私が特に話したのは、安心という部分で望ましい街の姿の中にそれに相当するキーワードがないので、それだけはきちんと入れてほしいということです。

高田委員 それから、私が先ほど申し上げた企業会計の話については、市のほうからもご説明いただいたほうがいいような気がします。

事務局（調整課調整担当係長） 前回の会議のときに資料として企業会計の部分を含んだ資料をご提示しています。それに関して当日質問はありませんでした。

高田委員 私は産業振興財団は市の経済局とフィフティー・フィフティーの感覚で大いにやるべきだろうとっております。そして、文言を全体会議で「画期的な」という言葉を追加してくださいと申し上げましたが、そういう問題にも少々触れています。時間は少ないですが、でもそれを放っておいていいかという問題は残ります。私たちは実際に全部チェックしながら議論したので、そういう意味では非常に詳しい部分も持っているわけですから、本当ならば、きちんとやるべきです。

土地の買収にしても、それをどう使うかということだって、経済の活性化とつながっていくわけです。今ある財産をどういう風に生かすかということは私は大きな使命だと思っています。農業の問題もしかりだと思えます。本当はそういう問題にまでふれたいです。

内田会長 どうぞふれてください。付加的意見ということで載せることは当然可能です。その場合はご自身で書いてもらわないといけないと思います。

とりあえず、時間がないということで、我々の意見が反映されるようなものにしたい。反映されるためには、我々がきちんと意見を市の人に伝えなければいけない。だから、この分科会としては、現状と課題の認識にそれほど大きな差はなかったので、とりわけこの施策の部分についてこういう形で入れてほしい、これはおかしい、というものがあれば、意見を言っていただく。それをまとめる作業は単なる作業として市の職員がやるということになります。

そして、それは個人の意見なので、それを分科会としてまとめるかどうかというのは、意見が分かれるところです。市のほうもそういう形でいいですか。

事務局（調整課調整担当係長） はい。

内田会長 では、そういう形にさせていただきます。

事務局（調整課調整担当係長） 次の分科会は3月1日を予定しております。その分科会でその次の全体会議にどのように報告するかということを議論しなければなりませんので、今日皆さんにお示しした資料がありますが、これについて「私はこう考える、こ

う直したい」ということを事前に私のところに出していただいて、私が皆さんから出されたものをまとめて整理して、それを事前に皆さんに資料としてお送りして見ていただきます。

そして3月1日の分科会でそれを持ち寄って、これは個人的意見であるとか、これは共有できる意見であるとか、そういうことを話し合ってください。そして全体会議に分科会としてどう報告していくかということを考えていきましょうということです。修正点が見えるようにこの上に書き込んでいただいて、郵送などで送っていただいてもけっこうです。

高田委員 それから、負の遺産についてこの場で討議すべきかどうかということについて、それはきちんとしておいたほうがいいと思いますが。

田村委員 今の先生のご意見を文章にさせていただいてそれを含めて提出すればいいのではないのでしょうか。

内田会長 そうです。それは我々の意見として出すという形で全く問題はないと思います。

事務局（調整課調整担当係長） いつ頃を目処に修正案をいただけるでしょうか。

24日ぐらいにまとめたものを送付すると、25日には着いて、何日間か皆さんに検討していただけるので、そうしますと、例えば20日の金曜日ぐらいに出していただくとありがたいのですが。

内田会長 では20日にしましょう。

### 3 閉 会

内田会長 それでは今日はこれで終わります。どうもありがとうございました。